

# 外科学第一

## 1 構成員

	平成21年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	2人（2人）
助教（うち病院籍）	5人（3人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	5人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	3人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	2人
合 計	18人

## 2 教員の異動状況

椎谷 紀彦（教授）	（H21. 2. 1～現職）
鈴木 一也（准教授）	（H12. 4. 1～H21. 2. 28退職）
小林 利彦（講師）	（H16. 7. 1～現職）
山下 克司（講師）	（H15. 1～現職）
餅田 良顕（助教）	（H12. 4. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
和田 英俊（助教）	（H10. 7. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
寺田 仁（助教）	（H13. 4. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
鷺山 直己（助教）	（H13. 6. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
小倉 廣之（助教）	（H18. 1. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5編（4編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	16編（16編）

そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	2編 ( 2編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	9編 ( 8編)
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Bashar AHM,Suzuki K,Kazui T,Ymaguchi M,Suzuki T,Washiyama N,Terada H,Yamashita K.:Changes in cerebrospinal fluid and blood lactate concentrations after stent-graft implantation at critical aortic segment:a preliminary study, Interactive Cardio Vascular and Thoracic Surgery;7(2): 262-266, 2008
2. 竹下明裕, 浅井隆善, 村上勝, 藤原晴美, 石塚太三江, 中井さやか, 山田千亜希, 鈴木妙子, 内山幸則, 前川真人, 重野一幸, 鷺山直己, 山下克司, 海野直樹, 新庄香, ; 地方病院における大量輸血対応体制の構築と血液の有効利用, 日本輸血細胞治療学会誌, 55(1); 63~67, 2009
3. 宮木祐一郎, 山口晃弘, 磯谷正敏, 原田徹, 金岡祐次, 亀井桂太郎, 鷺津潤爾, 相川潔, 小林利彦, : 拡張腸管内の貯留液CT値からみた絞扼性イレウス診断. 日本消化器外科学会雑誌 41: 464-468, 2008.
4. 磯野忠大, 和田英俊, 渡辺浩, 小西由樹子, 小林利彦, : 当科における腹腔鏡下腹壁ヘルニア根治術13例の検討とわれわれの工夫. 臨床外科63(8): 1109-1114, 2008
5. 和田英俊, 小林利彦, 小西由樹子, 磯野忠大, 宮木祐一郎, 椎谷紀彦, : 経腹腔鏡のアプローチによる腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術. -再発と合併症の予防- 消化器外科32(3): 343-353  
インパクトファクターの小計 [0.00]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小林利彦: 大学病院の運営・経営改革に全力投球. 医療タイムス No.1868: p.34, 2008. 5. 19.
2. 小林利彦: 「医療の質とは? (医療サイドの観点から)」(上). 医療タイムス No.1872: p.35, 2008. 6. 16.
3. 小林利彦: 「医療の質とは? (医療サイドの観点から)」(下). 医療タイムス No.1873: p.35, 2008. 6. 23.
4. 小林利彦: 「DPCとクリティカルパス-DPC適応型パスからパス追従型DPCへ-」. 医療タイムス No.1876: p.27, 2008. 7. 14.
5. 小林利彦: 電子カルテ再考① ペーパーレス電子カルテは本当に必要か?. 医療タイムス No.1878: p.35, 2008. 7. 28.
6. 小林利彦: 電子カルテ再考② 電子カルテ業界への注文-医療情報の標準化について-. 医療タイムス No.1879: p.31, 2008. 8. 4.
7. 小林利彦: 「DPCシステムの問題点-適正コーディングとは?-」. 医療タイムス No.1881: p.29, 2008. 8. 25.

8. 小林利彦：「DPCシステムの問題点－ICDコーディングとDPCコーディング－」，医療タイムス No.1883: p.31, 2008. 9. 8.
9. 小林利彦：4疾病5事業とDPC「機能評価係数」との関係? 医療タイムス No.1887: p.442, 2008. 10. 6.
10. 小林利彦：「DPCレセプト提出時における包括部分に係る診療行為内容の添付」について，医療タイムス No.1888: p.27, 2008. 10. 13.
11. 小林利彦：病院の可視化で経営改善・医療の質向上に弾み，医療タイムス No.1889: p.26-27, 2008. 10. 20.
12. 小林利彦：DPC支援ソフトと医療関係者とのかかわり①，医療タイムス No.1892: p.31, 2008. 11. 10.
13. 小林利彦：DPC支援ソフトと医療関係者とのかかわり②，医療タイムス No.1894: p.31, 2008. 11. 24.
14. 小林利彦：DPC支援ソフトと医療関係者とのかかわり③，医療タイムス No.1898: p.31, 2008. 12. 22.
15. 小林利彦：DPC適正コーディングにおける問題点 ―具体的事例を通して①―，医療タイムス No.1904: p.25, 2009. 2. 94.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 大園誠一郎，栗田豊，小林利彦，：医療経済的側面から探る前立腺肥大症の治療と管理. Progress in Medicine 28: 1419-1423, 2008.

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 宮木 祐一郎，和田 英俊，小林 利彦：イレウス・腸閉塞の治療とケア，消化器肝胆膵ケア，13 (6) :17-20, 2009.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 数井暉久，鷺山直己，鶴見智子，Chapter6胸部大動脈瘤（TAA）手術，Chapter7 腹部大動脈瘤（AAA）手術，松田捷彦，手術室完全マスター 心臓外科の器械出し，メディカ出版，吹田市，pp47-62，2009，心臓血管外科学

#### (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小林利彦，和田英俊，小西由樹子，宮木祐一郎，磯野忠大，小泉圭，：胃癌肝転移再発に対して化学療法施行後に肝切除術を試行した一例．外科治療98: 321-324, 2008.

2. 小林利彦, 和田英俊, 小西由樹子, 宮木祐一郎, 小泉圭, 河崎秀陽, : 著しい壁外発育を呈した巨大十二指腸gastrointestinal stromal tumorの1例. 外科70: 906-910, 2008.
3. 磯野忠大, 和田英俊, 小林利彦, 小倉廣之, 小西由樹子, 宮木祐一郎, 小泉圭, 照屋史子, 鈴木一也, : 腭癌化学療法中に多発梗塞をきたしたTrousseau症候群と診断した1例. 癌の臨床54: 701-705, 2008.
4. 磯野忠大, 小林利彦, :術前MRCPにて診断しえた胆嚢管の右肝管合流の1例. Gastroenterological Endoscopy 50: 2872-2873, 2008.
5. 磯野忠大, 小林利彦, 和田英俊, 小西由樹子, 宮木祐一郎, 小泉圭 :小網内Castleman病に対して腹腔鏡下手術を施行した1例. 日臨外会誌 69(2): 466-470. 2008
6. 寺田仁, 山下克司, 鷺山直己, 大倉一宏, 阿久澤聡, : 最重症COPD合併症例に対する弓部全置換術後に陽, 陰圧体外式人工呼吸器(RTX)と非侵襲的陽圧換気(NPPV)が有効であった一例. Jpn J Cardiovasc Surg. 37:112-115, 2008.
7. 山下克司, 阿久澤聡, 寺田仁, 鷺山直己, 大倉一宏, 数井暉久, : 肺動脈拡張を伴う成人肺動脈弁疾患に対する手術経験: Jpn J Cardiovasc Surg.37:100-103, 2008.
8. 大倉一宏, 山下克司, 寺田仁, 鷺山直己, 阿久澤聡, : Waffle procedureが奏功した収縮性心膜炎の1例. Jpn J Cardiovasc Surg. 38:138-141, 2009.
9. Yamashita K., Suzuki K., Terada H., Washiyama N., Ohkura K., Bashar AHM.: Surgical treatment for isolated coarctation of the aorta in an adult patient , Gen Thorac Cardiovasc Surg. 56: 340-343, 2008.

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### 4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	1件 (30万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	15件 (850万円)

##### (5) 受託研究または共同研究

1. 小倉廣之 ノバルティスファーマ(株) 30万円

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	1件
(2) シンポジウム発表数	1件	7件
(3) 学会座長回数	0件	3件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	10件
(6) 一般演題発表数	2件	

### (1) 国際学会等開催・参加

#### 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

##### 1. Ogura H., Hatuko NASU, and Harumi SAKAHARA

CLINICAL TRIAL OF OPTICAL MAMMOGRAPHY

San Antonio Breast Cancer Symposium 2008 サンアントニオ（アメリカ合衆国）2008. 12. 13

#### 5) 一般発表

##### ポスター発表

##### 1. Miyaki Y., Wada H., Isono T., Koizumi K., Konishi Y., Watanabe H., Ogura H., Kobayashi T.:

The laparoscopic transabdominal preperitoneal mesh repair (TAPP) for recurrent groin hernia., 11th World Congress of Endoscopic Surgery, 2008. 9. 3, Yokohama (Japan)

##### 2. Wada H., Kobayashi T., Konishi Y., Isono T., Miyaki Y., Koizumi K., Suzuki K.: LAPAROSCOPIC

INGUINAL HERNIORRHAPHY: 16YEARS, SINGLE CENTER EXPERIENCE IN JAPAN. 11<sup>th</sup> WORLD CONGRESS OF ENDOSCOPIC SURGERY Yokohama 2008, 09. 03

### (2) 国内学会の開催・参加

#### 2) 学会における特別講演・招待講演

##### 1. 小林利彦：DPCデータを活用した病院マネジメント, 「平成20年度 大学病院情報マネジメント部門連絡会議」ランチョンセミナー, 大分, 2009. 1. 22

#### 3) シンポジウム発表

##### 1. 小林利彦：電子カルテにおける医療情報の標準化出力の重要性. -静岡県版電子カルテの紹介とともに- 第10回日本医療マネジメント学会学術総会 パネルディスカッション2「電子カルテはずっと使えるの？買い換えないといけないの？-病院マネジメントの観点からこれから導入する病院へのアドバイス-」 2008. 6. 20, 名古屋

##### 2. 小林利彦：静岡県版電子カルテのさらなる普及に向けての課題. 第28回医療情報学会連合大会（第9回日本医療情報学会学術総会） 2008. 11. 25, 横浜

##### 3. 和田英俊：腹腔鏡手術からみた日本ヘルニア研究会ヘルニア分類の問題点. 第6回日本ヘルニア研究会 シンポジウム 2008. 04. 12, 東京

4. 和田英俊：鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術の変遷。第21回日本内視鏡外科学会総会 スポーツサードシンポジウム（Laparoscopicヘルニア修復術を安全に行なうための教育的セッション） 2008. 09. 02, 横浜
5. 鷺山直己：弓部全置換術における温度管理に関する検討（シンポジウム）。第61回日本胸部外科学会総会 2008. 10. 14, 福岡
6. 小倉廣之：新しい乳癌の画像診断技術，光マンモグラフィの臨床経験。第16回日本乳癌学会総会 2008. 9. 26, 大阪
7. 小倉廣之：新しい乳癌の画像診断技術，光マンモグラフィの臨床経験。第70回日本臨床外科学会総会 2008. 11. 27, 東京

4) 座長をした学会名

- 山下克司：第51回関西胸部外科学会（大動脈解離1） 2008. 06. 20, 富山  
 小林利彦：第10回日本医療マネジメント学会学術総会 ランチョンセミナー9  
 「より効率的な手術室運用を目指して」, 2008. 6. 21, 名古屋  
 和田英俊：第21回日本内視鏡外科学会総会 2008. 09. 02, 横浜

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 椎谷紀彦：日本胸部外科学会 評議員  
 椎谷紀彦：日本血管外科学会 評議員  
 椎谷紀彦：日本人工臓器学会 評議員
- 小林利彦：日本消化器外科学会 評議員  
 小林利彦：日本胃癌学会 評議員
- 山下克司：関西胸部外科学会 評議員
- 和田英俊：日本内視鏡外科学会 評議員  
 和田英俊：日本臨床外科学会 評議員  
 和田英俊：日本ヘルニア学会 評議員
- 小倉廣之：日本乳癌学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

1. Eur J Cardio-Thorac Surg: 1,
2. 日本血管外科学会雑誌：1,

3. Surg Today (日本) : 1,

## 9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	1件
(3) 学内共同研究	1件

(2) 国内共同研究

1. JASPAR研究

(3) 学内共同研究

1. 浜松ホトニクス(株), 放射線科共同; 近赤外線を利用した乳がん検査装置の開発/研究。

## 10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	1件

1. リハビリテーション・介護支援のためのパワーアシスト技術研究会

(豊橋技術科学大学, 浜松医科大学, 三河地区医療機器会社との協働事業)

## 11 受賞

(1) 国際的な授賞

1. Yuichiro Miyaki: the Young Investigators Award (YIA), the 11th World Congress of Endoscopic Surgery.

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 宮木祐一郎, 鈴木浩一<sup>1</sup>, 小泉圭, 小西文雄<sup>1</sup>, 和田英俊, 椎谷紀彦, (<sup>1</sup>: 自治医大埼玉医療センター外科) : 遺伝子異常メチル化と抗癌剤カンプトテシン耐性: DNAの異常メチル化が癌に関連していることが報告されている。我々は現在までに大腸癌・胃癌において, 高頻度に異常メチル化しているプロモーター領域を有する遺伝子の存在を指摘し報告してきた。同遺伝子はメチル化によって発現が制御されており, また脱メチル化することで発現が回復することを確認した。同遺伝子に関しての報告は他に認められず, その機能も不明であった。我々はRNAiを利用し機能検討を行い, 同遺伝子が抗癌剤カンプトテシンによるアポトーシス制御に関連していることを発見した。
2. 小倉廣之: 近赤外線を利用した乳がん検査装置の研究: 約80名の乳がん患者において臨床評価を行い検査装置の改善を行っている。
3. 小泉圭, 鈴木浩一<sup>1</sup>, 宮木祐一郎, 小西文雄<sup>1</sup>, 椎谷紀彦, (<sup>1</sup>: 自治医大埼玉医療センター外科) genome-wideな異常メチル化の検出: 癌組織において認められる異常メチル化は局所的な高メチル化とgenome-wideな低メチル化であるが, この変化は癌組織だけでなく, 発癌の背景にある慢

性炎症組織などにおいても認められる。我々は独自に開発した「DNA array MS-AFLP」を用い、その異常メチル化の頻度と癌易罹患性についての検討を行った。慢性炎症疾患として潰瘍性大腸炎患者の手術標本を用い、担癌状態の潰瘍性大腸炎患者においてはその背景組織から異常メチル化が高頻度に蓄積し、罹患年数と相関していることを発見した。

#### 14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 宮本祐一郎：LOC642755遺伝子異常メチル化と抗癌剤カンプトテシン耐性：現在カンプトテシンは癌治療において必要不可欠な薬剤であり、20～40%の奏効率を呈している。我々は同治療に抵抗を示す癌細胞に対して、in Vitroではあるが本遺伝子を制御することで奏効率を上げることを確認した。同技術を臨床応用することで、現在の抗癌剤治療に抵抗を示す癌に対して奏効率を向上させる事が可能になると考えられる。また大腸癌・胃癌以外の癌腫に対しても応用が可能になると考えられる。
2. 小倉廣之：近赤外線を利用した乳がん検査装置の研究：国内では乳がん診断技術としては唯一の研究であり、国際的にも独創的な研究として注目を集めている。
3. 小泉圭：genome-wideな異常メチル化の検出：異常メチル化の検出方法として独自に開発した「DNA array MS-AFLP」を用いている。このarrayを用いることで、少量のサンプルからでも高感度に異常メチル化の蓄積を評価する事ができ、現在その検証と有用性の評価を行っている。

#### 15 新聞、雑誌等による報道

1. 小林利彦：2008年11月29日～30日に市内医師会および病院勤務医の協力のもと、市民参加型の医療ゾーンイベント「メディメッセージ2008 in浜松」をアクトシティ展示ホールにて開催した。実行委員として内容をコーディネートしたが、手術室再現ゾーンでは浜松医科大学附属病院の外科・麻酔科医師の協力のもと内視鏡下手術のシミュレーションコーナーを提供したほかに、当大学医師による市民公開講座を併施するなど、2日間にわたり約5000人の市民参加を得てマスコミメディアにも大学病院の地域貢献事業としてのアピールができた。